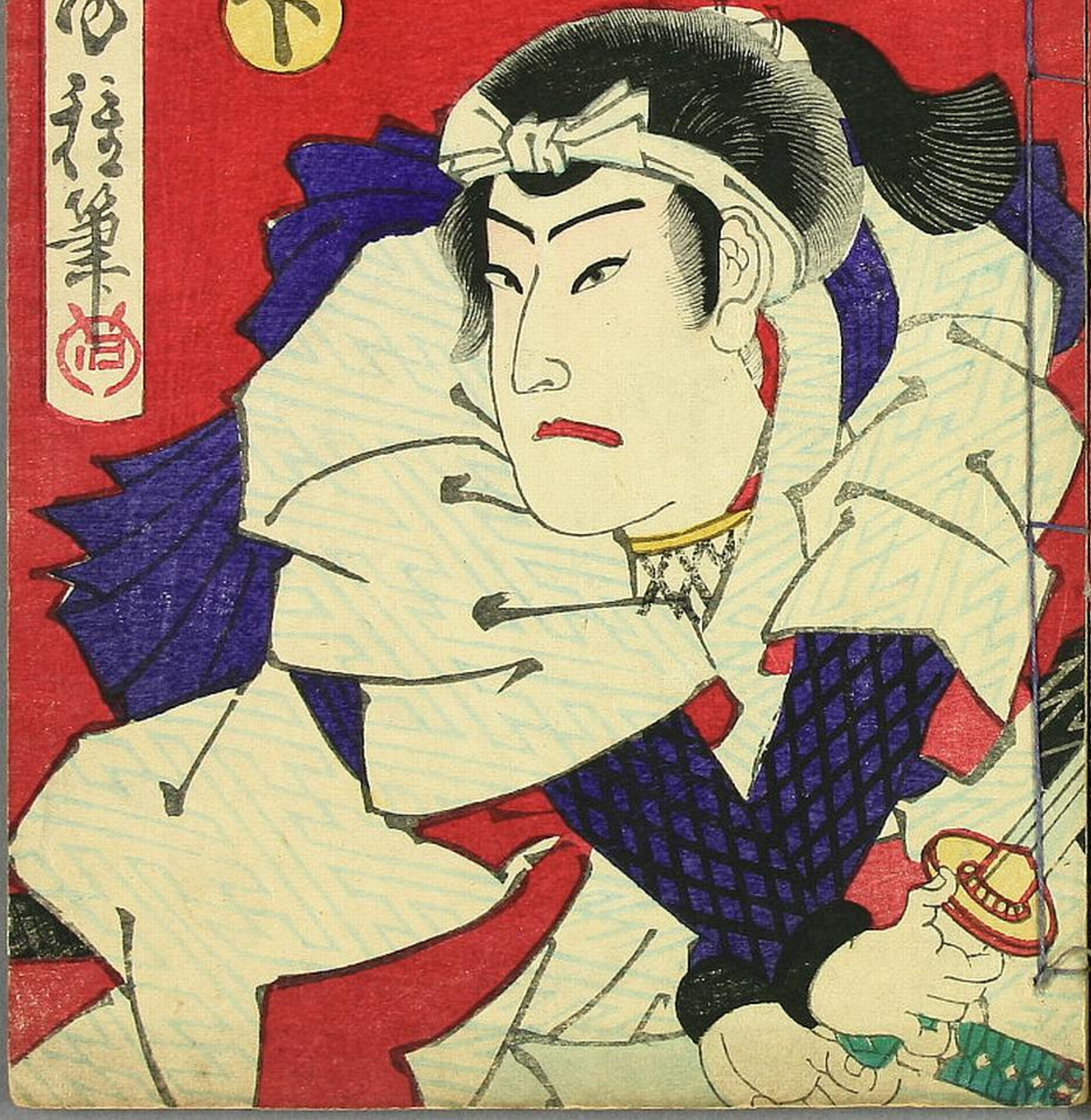


箱根権現 寒足の仇討

尾形半蔵

下



上

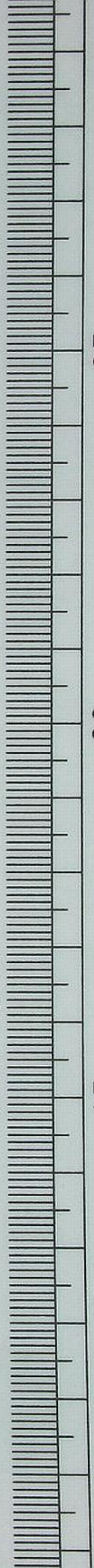
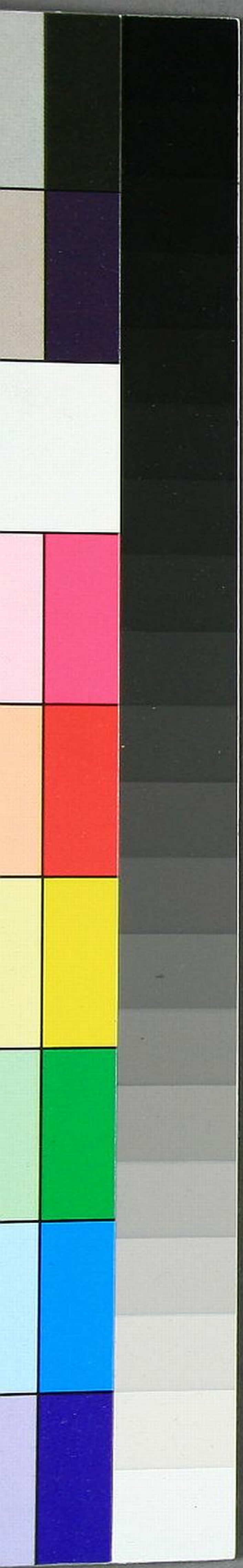


25

20

15

10



10

15

20

25

AY72

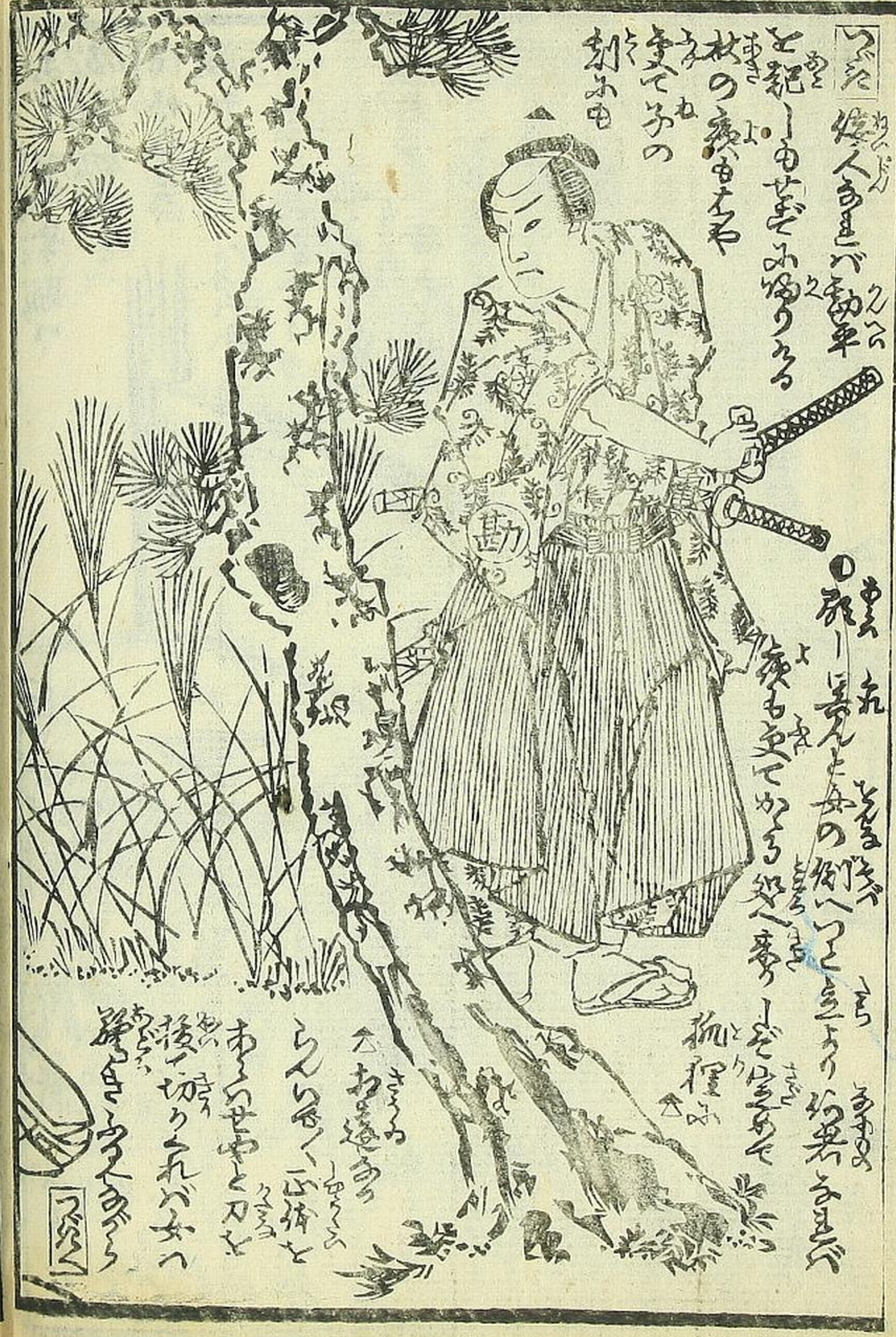
昔より名高うり箱根権現蹇の雙計と題せし
 其正説は掲ぐる抑飯沼島平同寮あり加藤幸助
 切害され其子初五郎父の仇と報ひんと数年間
 千辛萬苦して諸所遍歴る箱根山より敵を
 幸助に出會ひ本望と遂げ帰国の上本領安
 堵再び飯沼家の繁茂悪人亡び孝心貫徹する
 の話説と綴りて童蒙の慰勞と備んとす

明治十二年八月

編者識

48-8137





つた 俊人のまにわらふ車
 と能くもせよみゆりなる
 杖の疾ゆまむ
 手さすの
 初ふゆ

● 旅し舞えと女の剣へつとまより
 疾も更てかき入夢しをばあや
 旅程か

大おぼろ
 らしきへ心持を
 市にせむと刀を
 後切りこれば女へ
 舞えとまよ

三



あうゆれ
 續のきり
 と風あくとまきふ
 夢と目と明とまむ
 舟もむさそふ余とゆ
 ぬいへきんぬりーめあらん
 とやとまよらんといふ為の

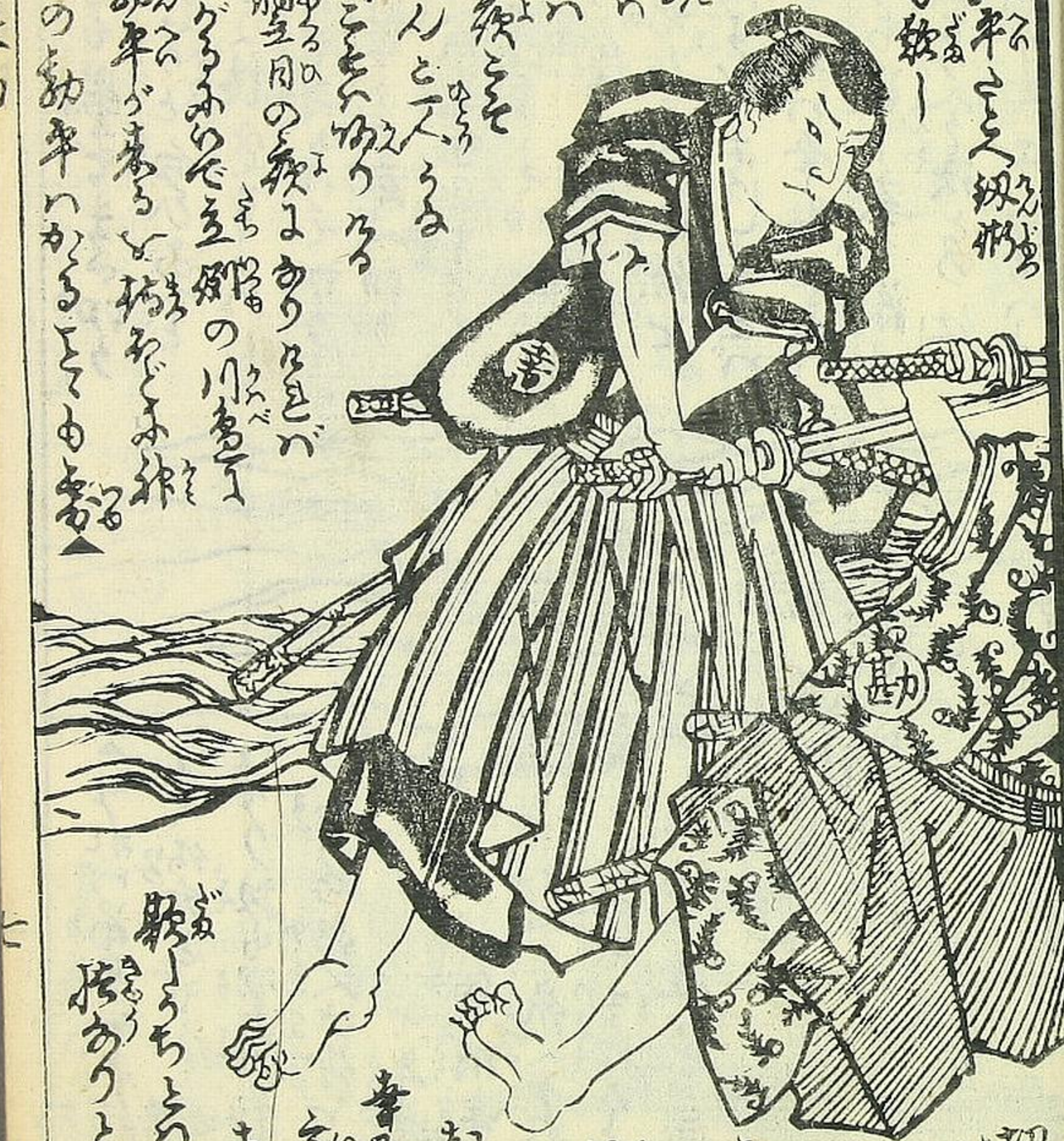
初ふゆまむーまよらん
 二九のぬまむを欺むく
 三〇のぬまむを欺むく
 三一のぬまむを欺むく
 三二のぬまむを欺むく
 三三のぬまむを欺むく
 三四のぬまむを欺むく
 三五のぬまむを欺むく
 三六のぬまむを欺むく
 三七のぬまむを欺むく
 三八のぬまむを欺むく
 三九のぬまむを欺むく
 四〇のぬまむを欺むく
 四一のぬまむを欺むく
 四二のぬまむを欺むく
 四三のぬまむを欺むく
 四四のぬまむを欺むく
 四五のぬまむを欺むく
 四六のぬまむを欺むく
 四七のぬまむを欺むく
 四八のぬまむを欺むく
 四九のぬまむを欺むく
 五〇のぬまむを欺むく

つぎやうとあき
 の血の流るるを
 どのまののまを
 後の隙のまを
 うらやあこと
 結ぶんと
 よの流るるを
 ちりまを
 身よを
 ぬを
 歌むたあせ
 場と
 あとよ
 むく



初ら
 らの
 ちり
 の
 後より
 つる
 幼平
 隙も

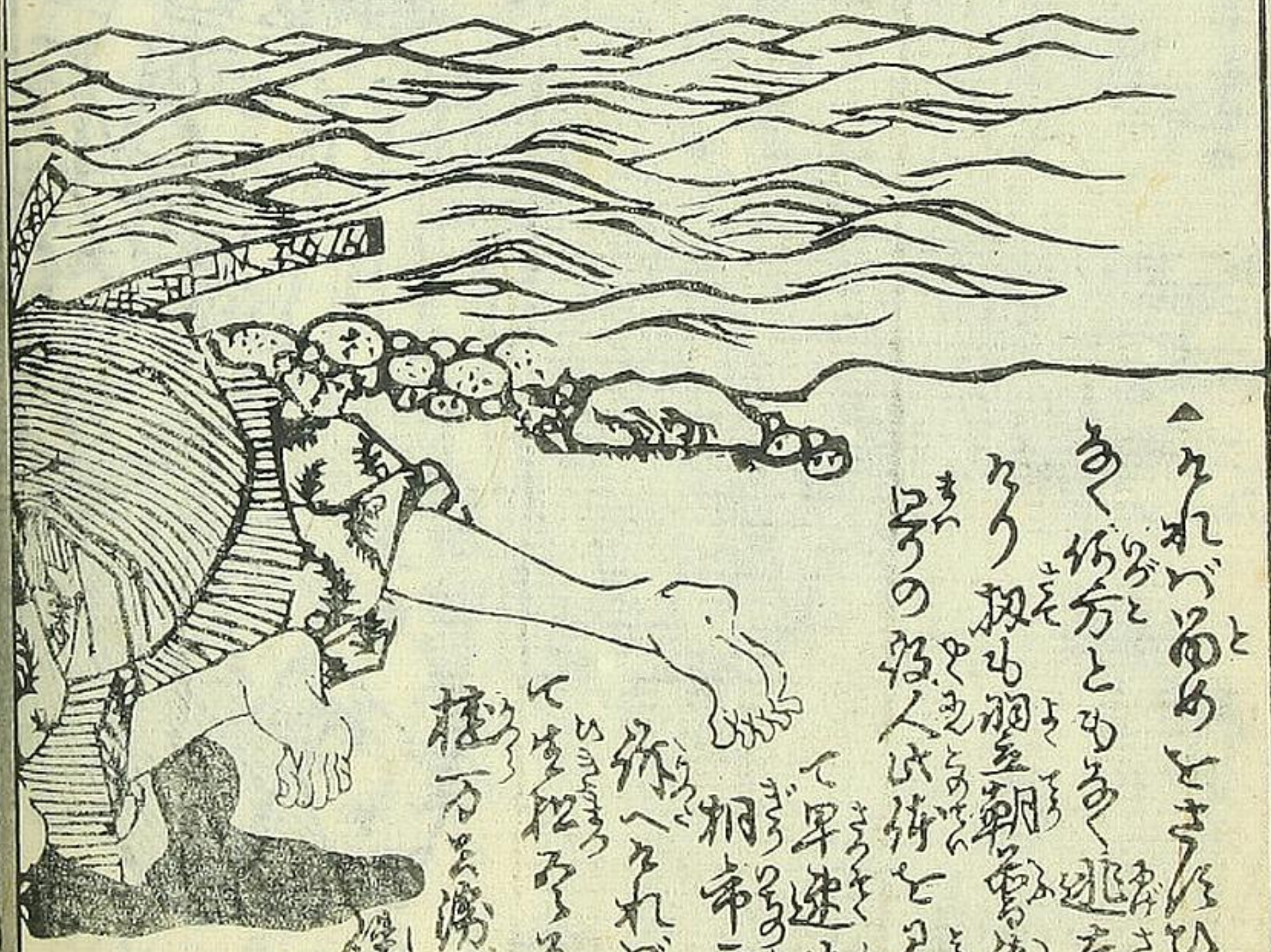
幼平
 果
 初
 の
 我
 必
 老
 づ
 既
 幸
 来
 あ



初
 ら
 の
 幸
 来
 あ

山崎宗信

つぎに
 つまやも 累かきまき切り
 うろたへたりと 向ひあはど
 先の 深き又 深きまき
 幸助が 甲冑かけて 切り
 解きまきと 髪より 身へ切り
 こゝろに 二人の 互ひは 赤ま
 深き 火起と ちうし 切解の
 お務め 物の 氣も つうき なる
 も 命と 思ひ 盡して 体と
 なで 髪は 長く まじり 髪は
 一人の 幼弟 二人の 幸助を 見
 きたり けしき 米一 幸の 海
 せん とも の むより 今夜 の 仕
 事は 見る の 一に 入り 入り 入り



△これづるめとさけひも
 あく 何方とも 逃る
 ろう 叔も 朝 敵 討
 まの 役人 討て 見付
 て 早速 片
 相 市 更
 行へ くれが 極
 て 生かす 是 際
 柱 万 葉 極
 極と

いそせと 髪を 掃き ぬきまきど
 助けん 淋の あり
 只ら ちうと さま
 ちうら 幼弟の 海
 ごと 命と 思ひ 盡
 又の 打ち
 きき 幸
 助が かき
 を 刀の 下
 あり 刃を 見せ 果
 さ 見んと する 体と 思
 お 務め の の ねを もり けり
 幸助の 襟の まき づつ げ 幸助の
 お 務め と 引く げ 名や 明方 も ち



伏せ 人 世 け 伏せ
 それに
 助平
 ちて
 救う 両の
 命の
 願ふ
 中 島 五 五 十 三

山崎宗信

息の中より
 冷牙と物落し
 今世のお終ひ
 十一年の
 中さるやうに
 息をよよひ
 客とあり
 心さる歌あり

若し
 心
 心
 心

心
 心
 心

心
 心
 心



平
 小
 子
 細
 子

幸
 勝
 勝

伏
 伏
 伏

伏
 伏
 伏

伏
 伏
 伏

八二



さるに報付を教ひて... 教のゆゑとて... 且此の是あは... 負ふ者... 交への名... 下る... 十の... あり... せし... 盡く... あり... ヤア...



さるに報付を教ひて... 教のゆゑとて... 且此の是あは... 負ふ者... 交への名... 下る... 十の... あり... せし... 盡く... あり... ヤア...

十次
十次

つぎ 海とるし 学芸と 樹一を片相

へも 暇をつげ 教らちの 教免とむひ

うけ 師の 師の 師の 用とむ

勢で 海とるし 樹一を片相

まうなる 師の 師の 用とむ

今又 年をむ

ゆりぬ 師の 師の 用とむ

別して 又身をも

免を 多く 教らちの 教免とむひ

十次 入の 六十五 入の 六十五

る 心細さの 浪の 浪の 用とむ

勢とむ 身をも 師の 師の 用とむ

海とるし 師の 師の 用とむ



有る 中一を 師の 師の 用とむ

まうなる 師の 師の 用とむ

勢で 海とるし 樹一を片相

まうなる 師の 師の 用とむ

今又 年をむ

ゆりぬ 師の 師の 用とむ

別して 又身をも

免を 多く 教らちの 教免とむひ

十次 入の 六十五 入の 六十五

る 心細さの 浪の 浪の 用とむ

勢とむ 身をも 師の 師の 用とむ

海とるし 師の 師の 用とむ

十次 入の 六十五 入の 六十五

る 心細さの 浪の 浪の 用とむ

勢とむ 身をも 師の 師の 用とむ

海とるし 師の 師の 用とむ

免を 多く 教らちの 教免とむひ

十次 入の 六十五 入の 六十五

る 心細さの 浪の 浪の 用とむ

勢とむ 身をも 師の 師の 用とむ

海とるし 師の 師の 用とむ

免を 多く 教らちの 教免とむひ

十次 入の 六十五 入の 六十五

る 心細さの 浪の 浪の 用とむ

勢とむ 身をも 師の 師の 用とむ

海とるし 師の 師の 用とむ

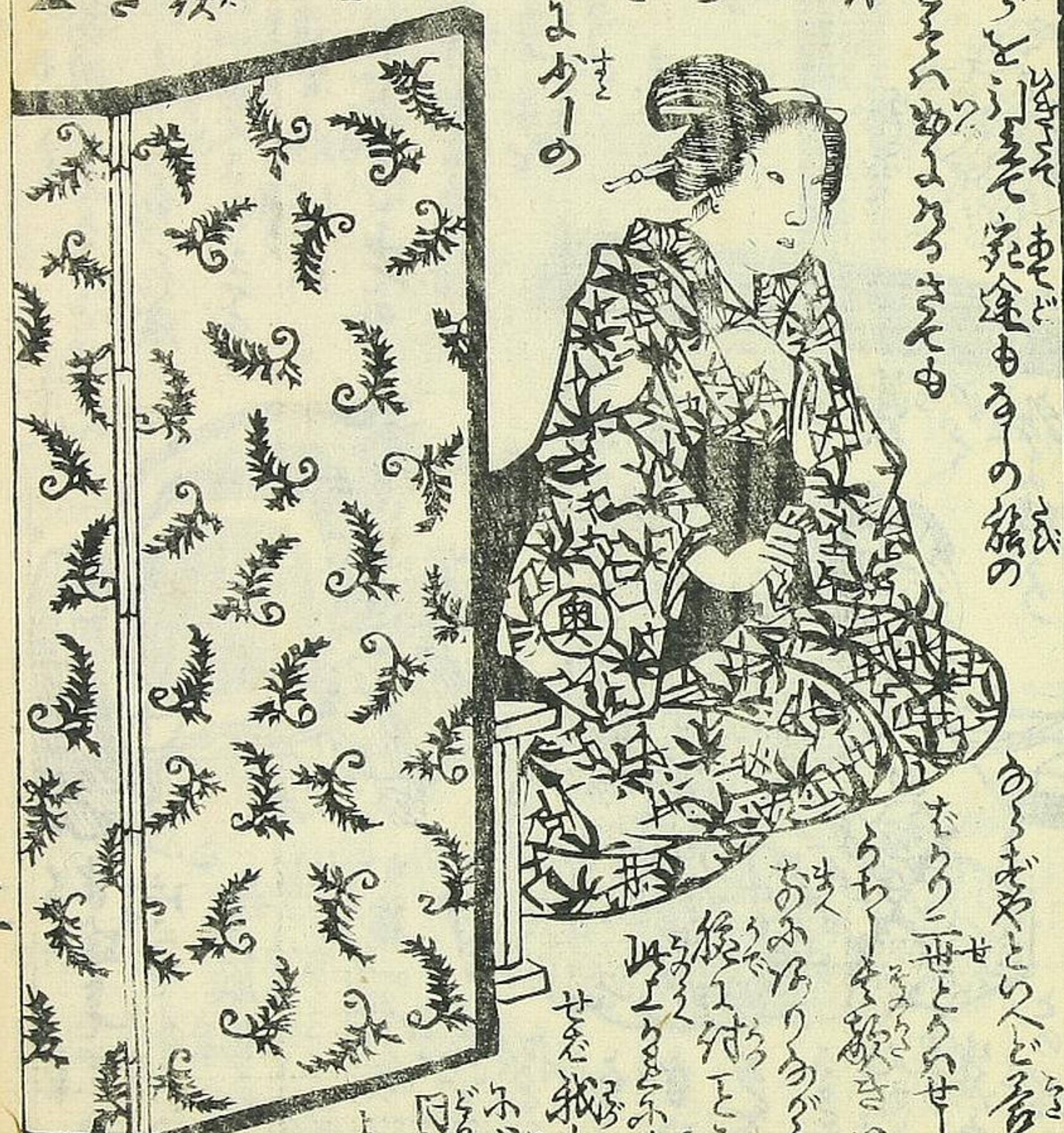
免を 多く 教らちの 教免とむひ

十次 入の 六十五 入の 六十五

る 心細さの 浪の 浪の 用とむ

勢とむ 身をも 師の 師の 用とむ

海とるし 師の 師の 用とむ



海とるし 師の 師の 用とむ

免を 多く 教らちの 教免とむひ

十次 入の 六十五 入の 六十五

る 心細さの 浪の 浪の 用とむ

勢とむ 身をも 師の 師の 用とむ

海とるし 師の 師の 用とむ

免を 多く 教らちの 教免とむひ

十次 入の 六十五 入の 六十五

る 心細さの 浪の 浪の 用とむ

勢とむ 身をも 師の 師の 用とむ

海とるし 師の 師の 用とむ

免を 多く 教らちの 教免とむひ

十次 入の 六十五 入の 六十五

る 心細さの 浪の 浪の 用とむ

勢とむ 身をも 師の 師の 用とむ

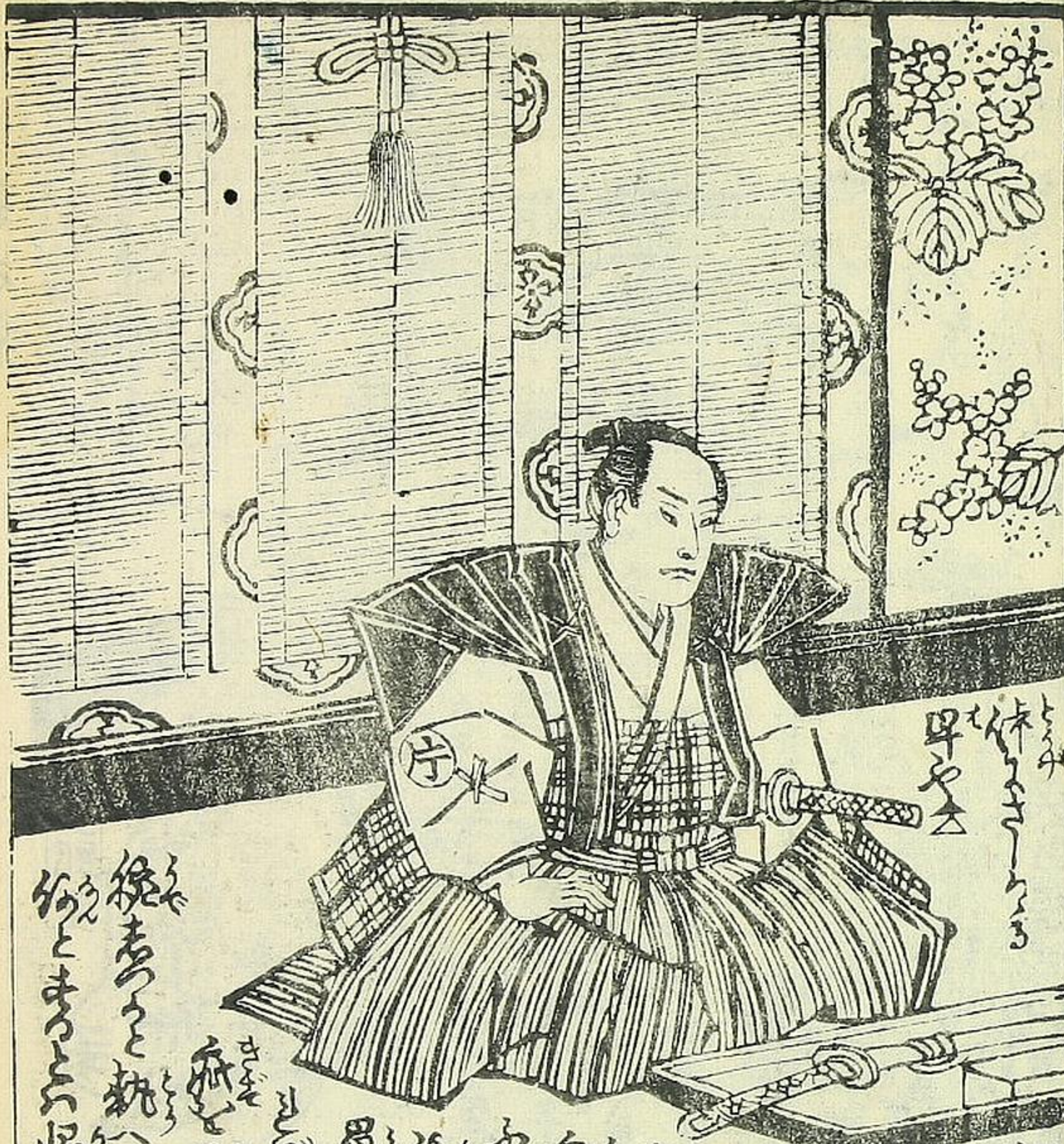
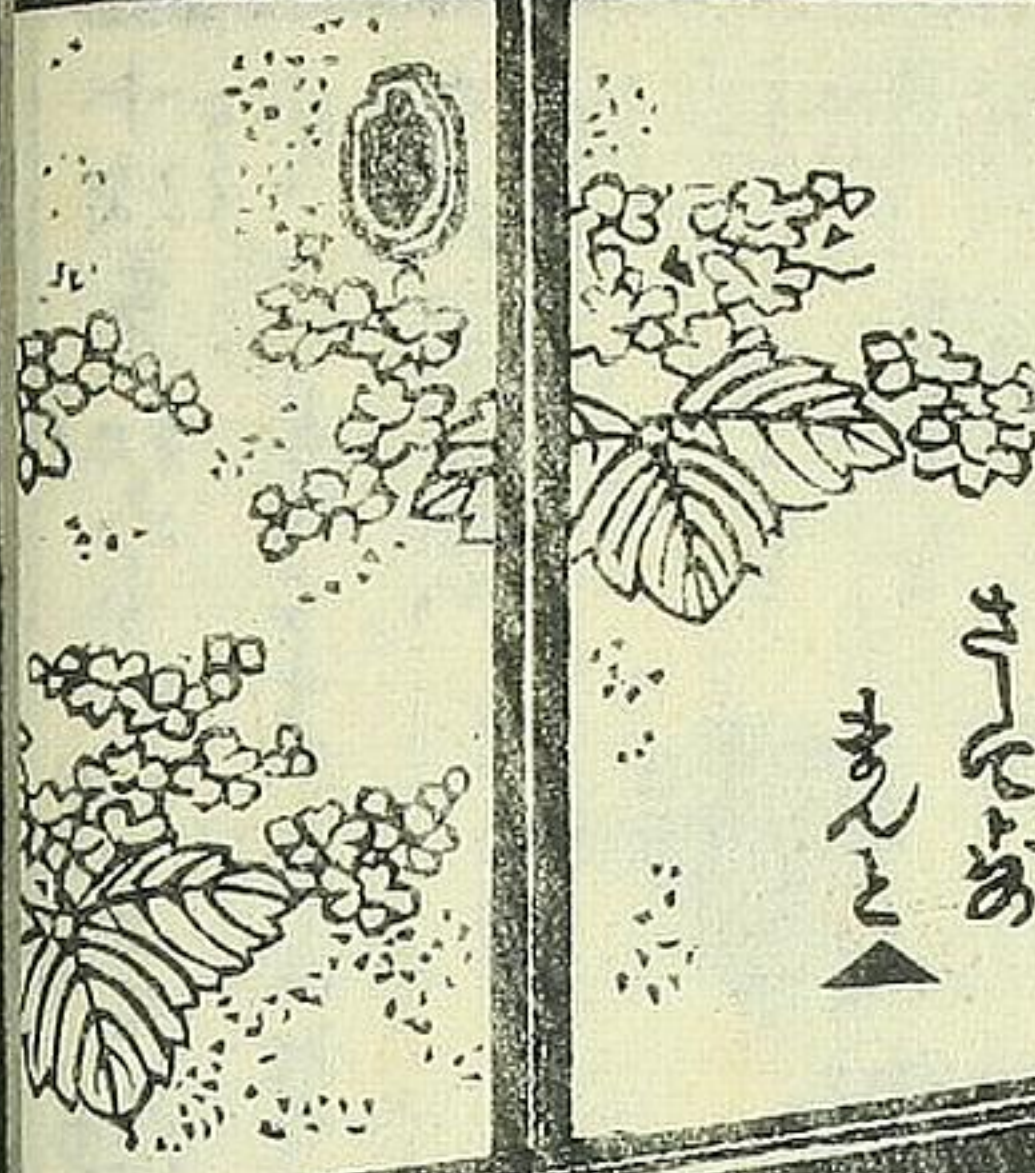
海とるし 師の 師の 用とむ

免を 多く 教らちの 教免とむひ

十次 入の 六十五 入の 六十五

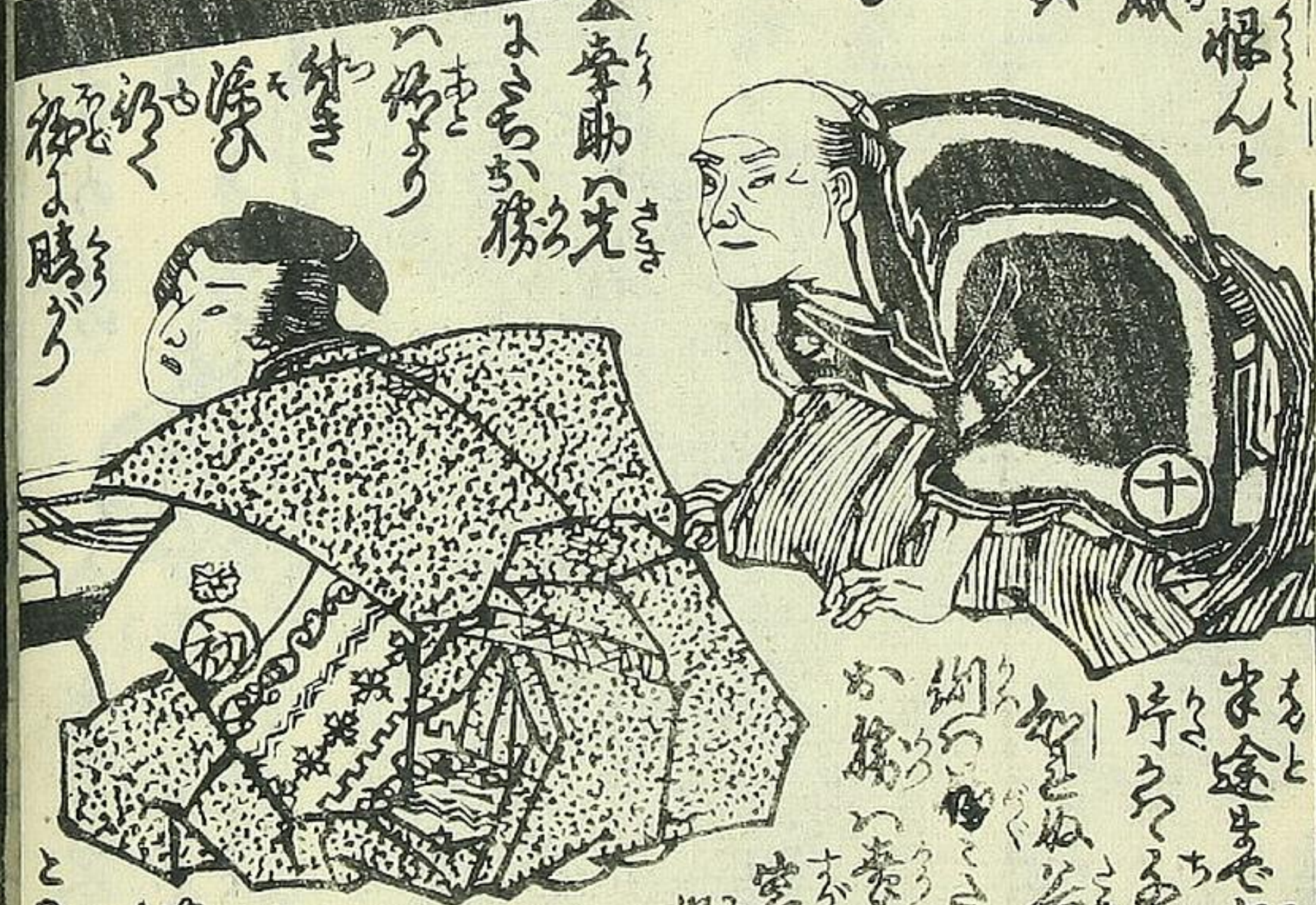
る 心細さの 浪の 浪の 用とむ

つき 足合せまの仇一ち方ありと恨んと
つる業を定めてちちらるるつた
後りう幼平い人よありて
初の薄うも目青勝びよ
かまへのんよあせゆ方よまの
きんえとのいふ事助よりて
さういふ思うさふら
さういふ
まんと



後まの執へりやわらとま
初とまの恨め一と世と

さういふ思うさふら
さういふ
まんと
さういふ思うさふら
さういふ
まんと
さういふ思うさふら
さういふ
まんと



幸助の元
よらち勝
初
後りう幼平い人よありて
初の薄うも目青勝びよ
かまへのんよあせゆ方よまの
きんえとのいふ事助よりて
さういふ思うさふら
さういふ
まんと

さういふ思うさふら
さういふ
まんと
さういふ思うさふら
さういふ
まんと

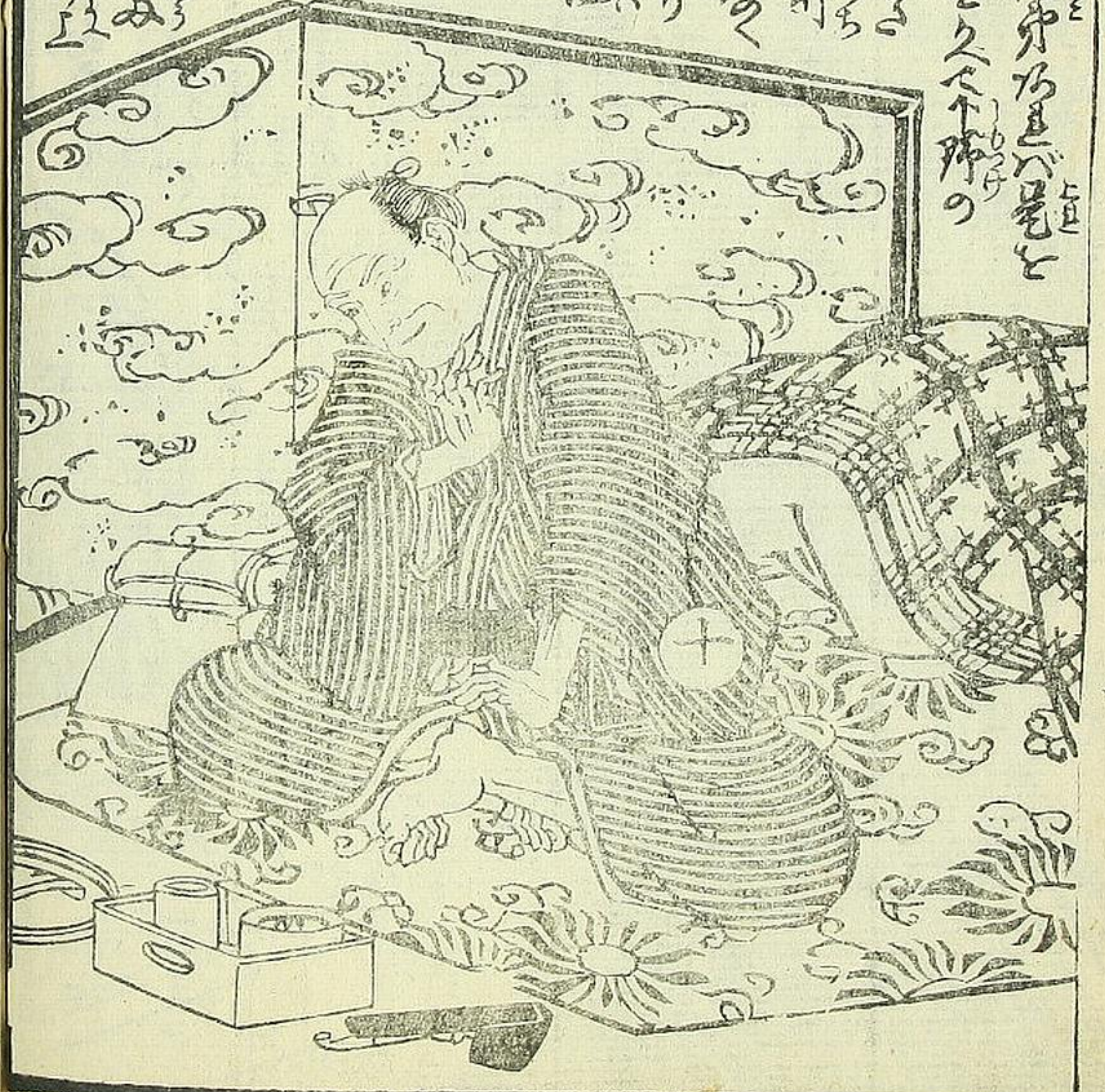


お世とおまの口は
お世とおまの口は
お世とおまの口は
お世とおまの口は



お世とおまの口は
お世とおまの口は
お世とおまの口は
お世とおまの口は

つき 月夜 一日 月老の影 影は長きと
 影は長きと 影は長きと 影は長きと
 影は長きと 影は長きと 影は長きと
 影は長きと 影は長きと 影は長きと
 影は長きと 影は長きと 影は長きと
 影は長きと 影は長きと 影は長きと



十夜 月老の影 影は長きと
 影は長きと 影は長きと 影は長きと
 影は長きと 影は長きと 影は長きと
 影は長きと 影は長きと 影は長きと
 影は長きと 影は長きと 影は長きと
 影は長きと 影は長きと 影は長きと





あきさきやうあきあきまはら
 早稲もよき代はせりゆく

子
 とも

あきさきやうあきあきまはら
 早稲もよき代はせりゆく

あきさきやうあきあきまはら
 早稲もよき代はせりゆく

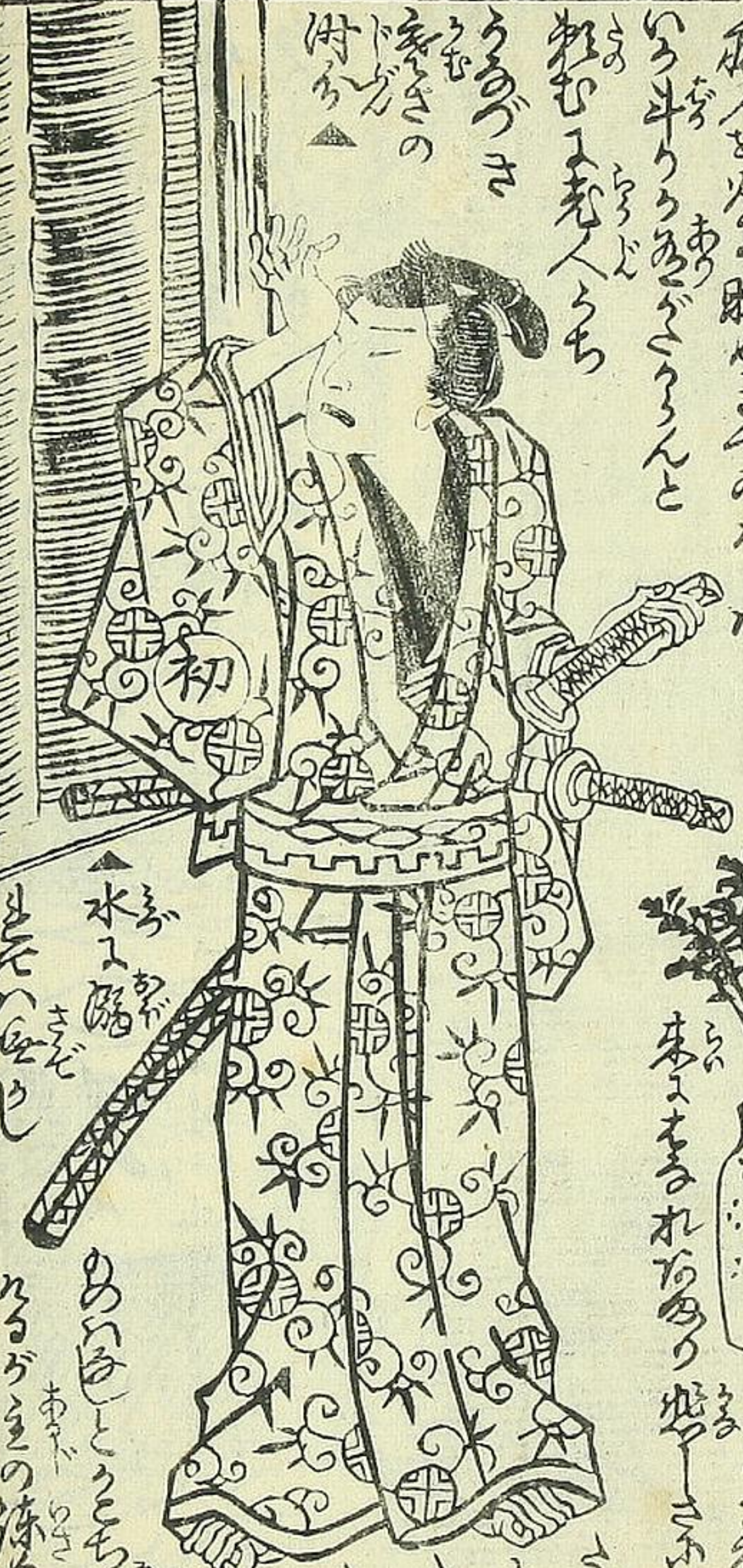
あきさきやうあきあきまはら
 早稲もよき代はせりゆく
 十月の中旬あるふ
 全夜給一板を夜に仰中
 病々たる奥形まで二月路も
 らんとのみ知まを来りたる既
 目も備だて黄昏をくありぬま
 及も多だてゆをふふ後雨ツの山川
 けう瀬をよみ水音をれと行橋ま
 びさふあうさこれに主橋をとりうち
 橋よりよ七かき渡り一か十は足足と
 踏をうし流を処人踏をあら例と橋よま
 ると初あうあうと抱き上り中り人
 つたれれも十は足は先象とのひまも
 乳の流まらねと長く病ひまら
 初あうの若芳とあひり本後せと



あきさきやうあきあきまはら
 早稲もよき代はせりゆく

あきさきやうあきあきまはら
 早稲もよき代はせりゆく

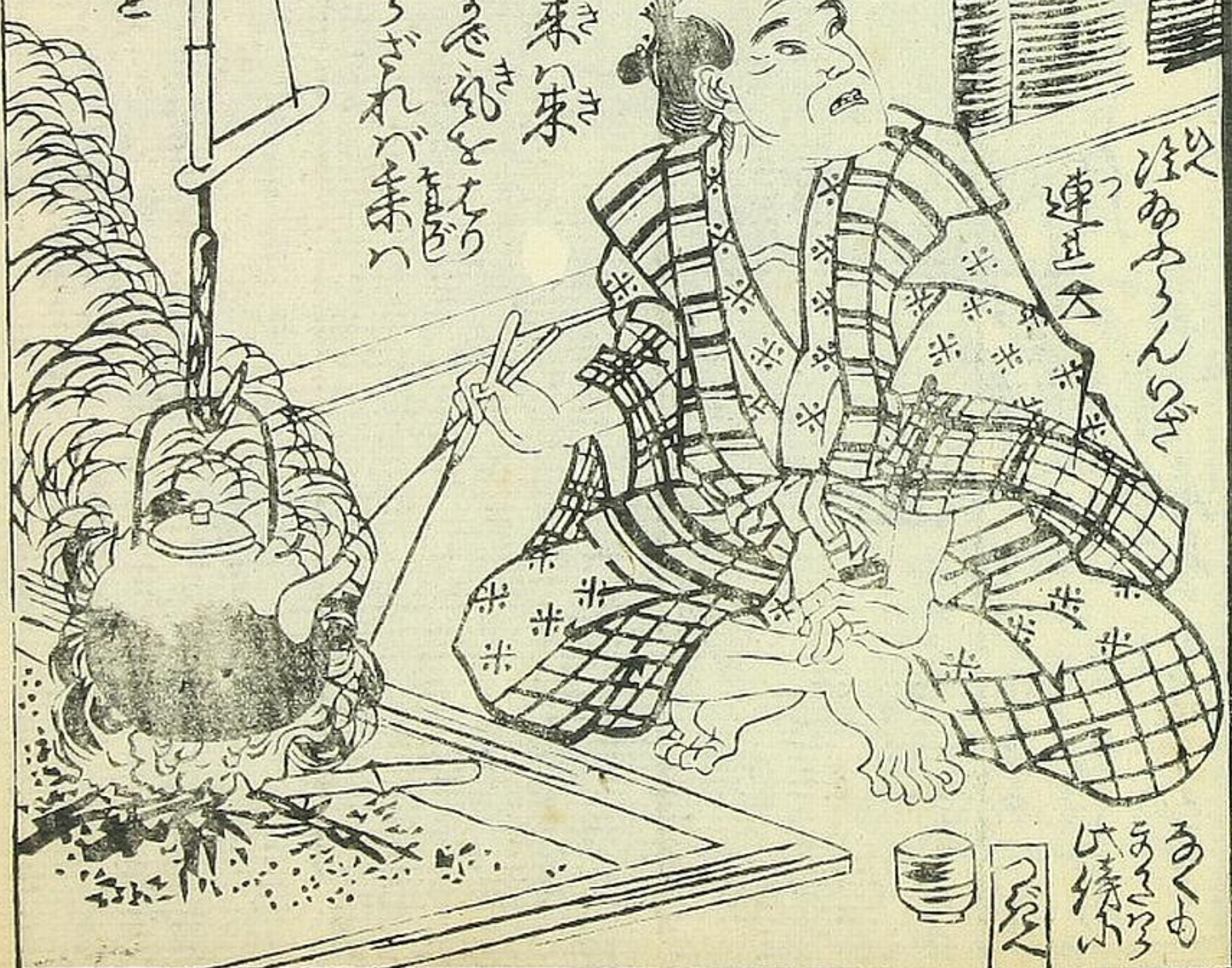
ついでとこれにあらざるがあらざる肉
 老人の火とては指さすべしこれ幸也
 初めはあらざるがあらざるの子細
 病入るとは腹めさぬなり
 いら半りうらまはさうらんと
 軽むと老人らち
 うらまはさ
 うらまはさの
 附か



水入
 水入
 水入
 水入

初めはあらざるがあらざるの子細
 病入るとは腹めさぬなり
 いら半りうらまはさうらんと
 軽むと老人らち
 うらまはさ
 うらまはさの
 附か

△あんとするものも若めな指ひて用が
 程のさへ（花さき）若めな指ひて用が
 て文絶まれは十次多人若くは小国と
 りひつらア、いことや若めな指ひて用が
 若めな指ひて用が
 されども長の積り、今も今も今も今も
 りあれどももう、若めな指ひて用が
 らよとお果べー、若めな指ひて用が
 て目付の
 若めな指ひて用が
 若めな指ひて用が



夫は昔の事と云ふものの疾いからしき
 古父や十はるが後世を仰らひる其の
 紀との人の細くも只ひらう其おへ
 傳へと准ふ教へ入らふもゆふく
 一いつ
 一いつ



▲直に居るがふとある
 初
 ぬれども居る初と云
 初
 一いつ



初
 初
 初
 初
 初

ついでに申すに、この八助は、武田家の御用者として、
 人々の心をなやませ、世の情の移りゆくを察し、
 事の成否を先に見定め、己の身も守るるも、
 武田家の御用者として、世の情の移りゆくを察し、
 事の成否を先に見定め、己の身も守るるも、
 武田家の御用者として、世の情の移りゆくを察し、
 事の成否を先に見定め、己の身も守るるも、



武田家の御用者として、世の情の移りゆくを察し、
 事の成否を先に見定め、己の身も守るるも、
 武田家の御用者として、世の情の移りゆくを察し、
 事の成否を先に見定め、己の身も守るるも、
 武田家の御用者として、世の情の移りゆくを察し、
 事の成否を先に見定め、己の身も守るるも、

一 武田軍記 一冊 諸國大台帳 二冊

大坂百参御陣 一冊 諸將家傳 二冊

豊臣太閤記 四冊 慶長島軍記 十冊

徳川武勇傳 六冊 延壽百人一首 一冊

大日本英雄軍記 二冊 改正世宗國史 一冊

楠公三代記 十冊 教皇七人史 一冊

報國志と鑑 四冊 甲斐國史 一冊

日吉九代記 一冊 敬元 九屋小林鉄次

東京日本橋區道三丁目三番地
 敬元 九屋小林鉄次

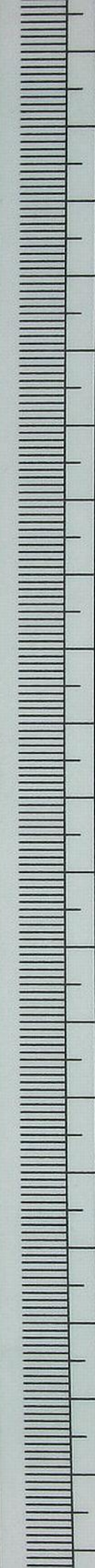
010190511281



箱根権現の寒足討

下

舟橋筆



25

20

15

10

A472

2止

箱根靈現記實録二号

却説八助の女と格たる八助とのやむとて
 細くすむのそひよとてしるすに
 被服とてとてきよなるきよなる
 抱く身とてかたきつるふらふら
 亡父とてかたきつるふらふら
 格たる女と格たる男のきよなる
 又の格たる女と格たる男のきよなる
 きよなるのきよなるの
 格たる女と格たる男のきよなる
 格たる女と格たる男のきよなる
 格たる女と格たる男のきよなる
 格たる女と格たる男のきよなる
 格たる女と格たる男のきよなる



九十九
 新左門

新左門

48-8738

ついでに平伏し見守る様もあつたけれど、その様子を
 見るにつれて、その御方様は、おまへ様も、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の

おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の

とまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の
 おまへ様の御方様は、おまへ様の御方様は、おまへ様の

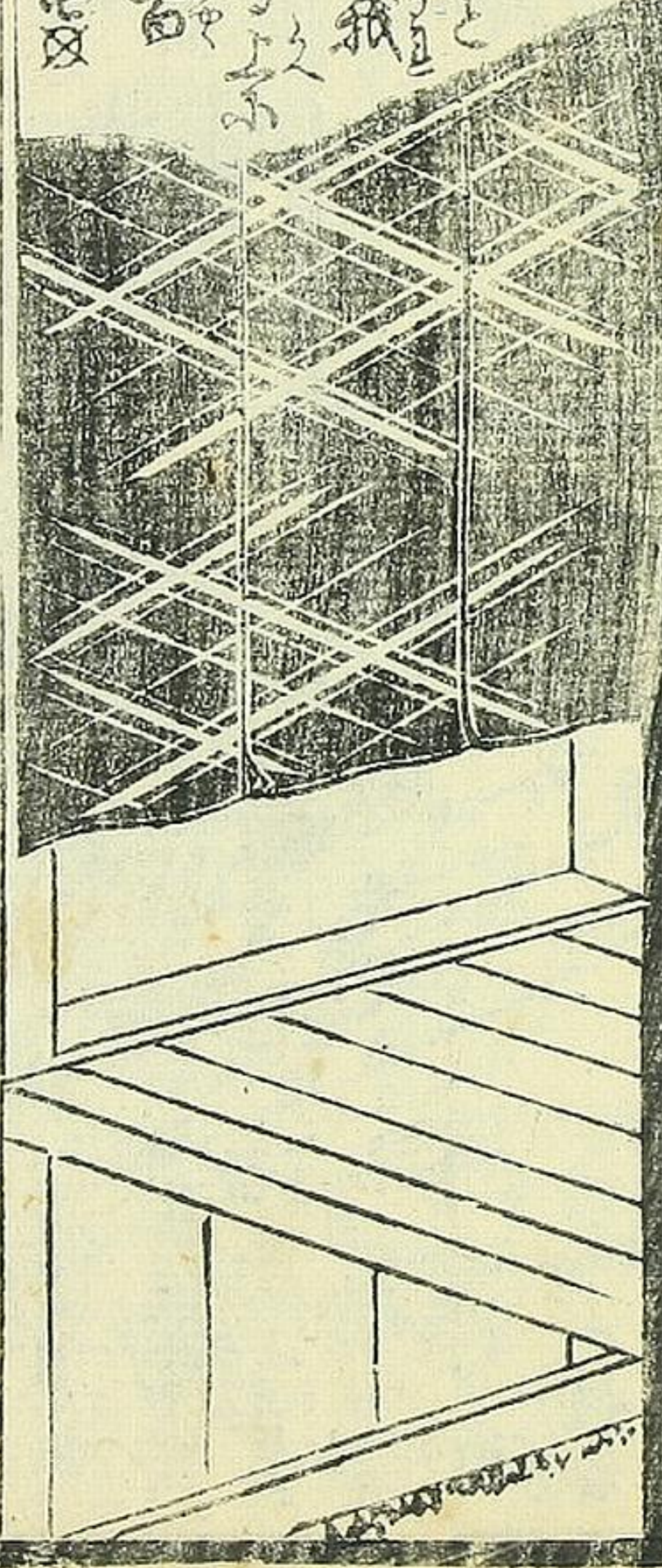


つとまされぬ哉用也ならしむ向ひ振の
痛れぬ助と鳥巻ふま八助
我の澤を者も鳥巻のつとま
流るる鳥巻も
らく鳥巻一

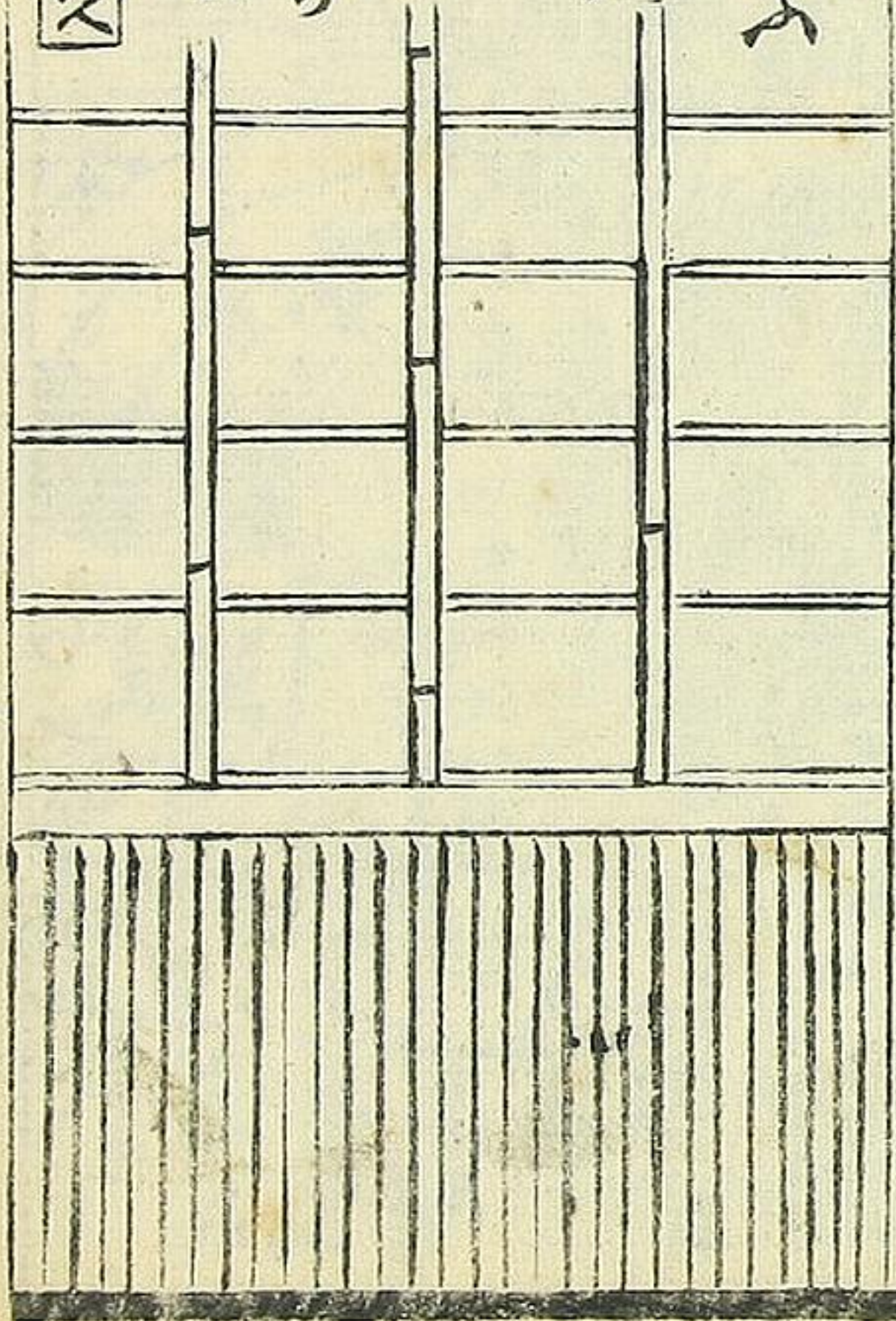


▲鳥巻は
あし
あるが
鳥巻の
鳥巻の
つとま八助と鳥巻は
九十九の家と續する鳥巻の

▲鳥巻は
あし
あるが
鳥巻の
鳥巻の
つとま八助と鳥巻は
九十九の家と續する鳥巻の

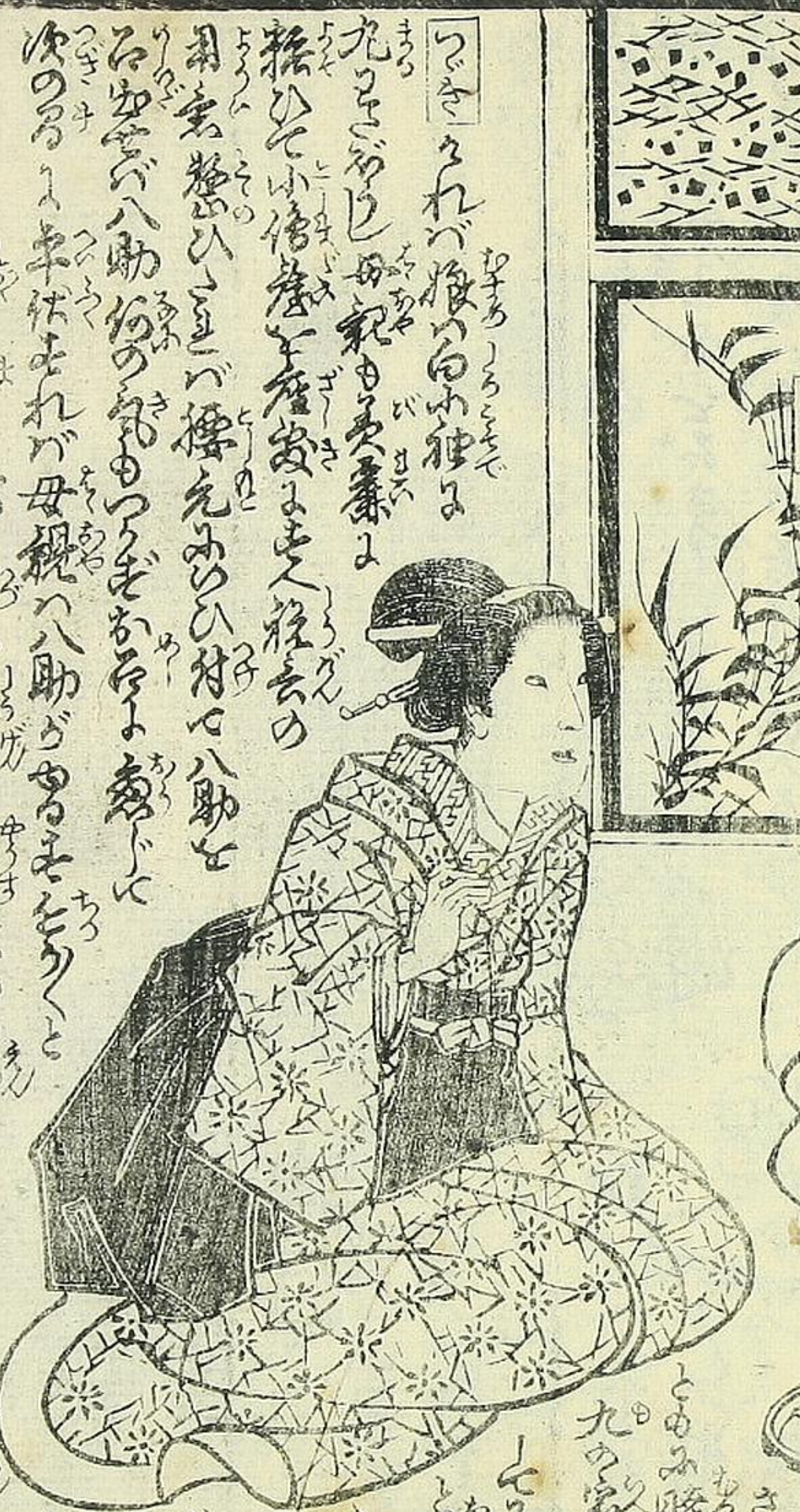


▲鳥巻は
あし
あるが
鳥巻の
鳥巻の
つとま八助と鳥巻は
九十九の家と續する鳥巻の



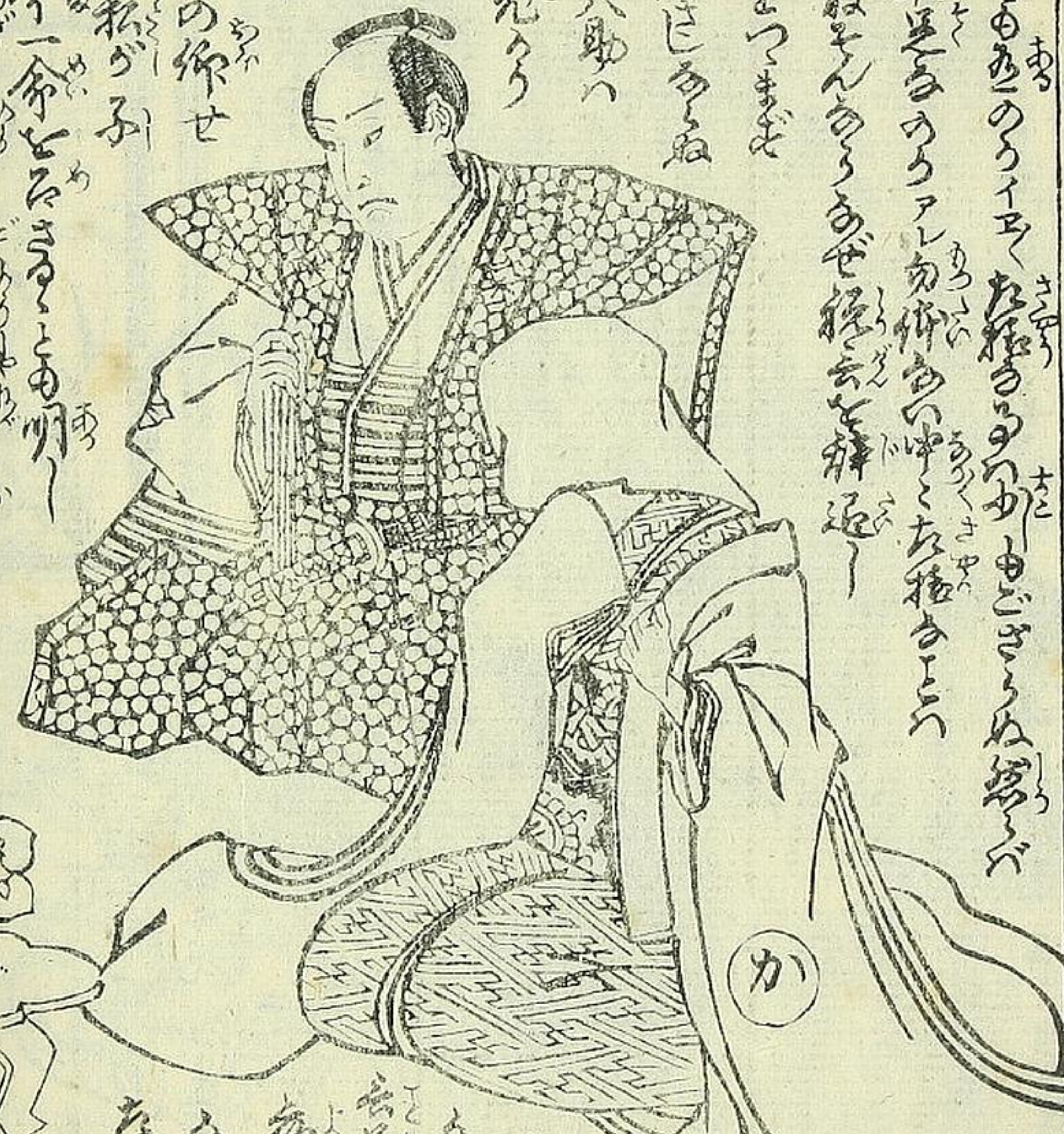


けしき くれび 娘は 白く 純よ
 九つ びらに 母親も 是も 素よ
 膝ひた 小侍 養を 養は 是も 程云の
 用事 養ひ 是の 梅元 どの 村の 八助と
 知る 是の 八助 何の 節も つら ます 養よ 養よ
 次の 年 是は 是れが 母親の 八助が ちまた ちまた
 合点 是も 是つと 末座 是つと 是れが 母親の 八助 是れ
 我こが 是の 養を 是れ 不意 是れ 養よ 養よ 養よ
 知る 是の 養を 是れ 是の 養よ 養よ 養よ 養よ 養よ

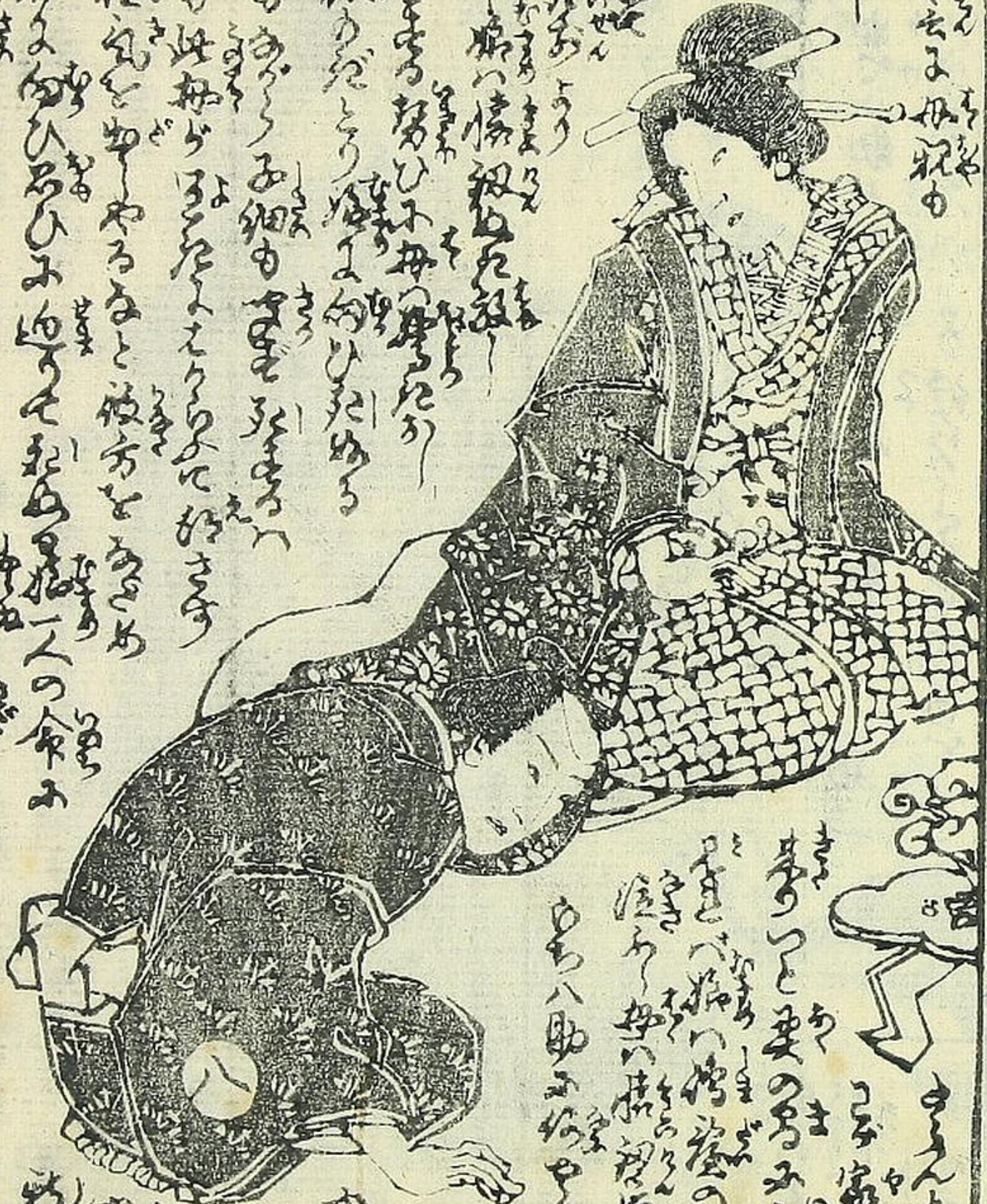


つき くれび 娘は 白く 純よ
 九つ びらに 母親も 是も 素よ
 膝ひた 小侍 養を 養は 是も 程云の
 用事 養ひ 是の 梅元 どの 村の 八助と
 知る 是の 八助 何の 節も つら ます 養よ 養よ
 次の 年 是は 是れが 母親の 八助が ちまた ちまた
 合点 是も 是つと 末座 是つと 是れが 母親の 八助 是れ
 我こが 是の 養を 是れ 不意 是れ 養よ 養よ 養よ
 知る 是の 養を 是れ 是の 養よ 養よ 養よ 養よ 養よ

あけのぼりのうらみ 花柳のうらみ 由緒のうらみ
 けのぼりが 不運のうらみ 勿論のうらみ 友達のうらみ
 ぞくぞく ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき
 中子子 細きつ まま
 猪ま ぬきぬき ぬきぬき
 世場の 縁八郎の
 さう 縁八郎の
 のいふも
 むろりーが
 やりくふびと
 あけのぼりのうらみ
 ぬきぬき ぬきぬき
 細きつ まま ぬきぬき
 ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき
 ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき



あけのぼりのうらみ 花柳のうらみ 由緒のうらみ
 けのぼりが 不運のうらみ 勿論のうらみ 友達のうらみ
 ぞくぞく ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき
 中子子 細きつ まま
 猪ま ぬきぬき ぬきぬき
 世場の 縁八郎の
 さう 縁八郎の
 のいふも
 むろりーが
 やりくふびと
 あけのぼりのうらみ
 ぬきぬき ぬきぬき
 細きつ まま ぬきぬき
 ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき
 ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき



ついでにあらまの...
 今更には...
 せし知れぬ...
 ...
 ...

八助が...
 さねの...
 ...
 ...
 ...



初五郎...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...



...
 ...
 ...
 ...
 ...

ふき 初年あつち父の机を被んと
つらき 十次多くと信よの足跡を方くと
ふの 採草のまじりまがりのまじり
あつち 初年あつち父の机を被んと
ふの 採草のまじりまがりのまじり
あつち 初年あつち父の机を被んと
ふの 採草のまじりまがりのまじり
あつち 初年あつち父の机を被んと
ふの 採草のまじりまがりのまじり

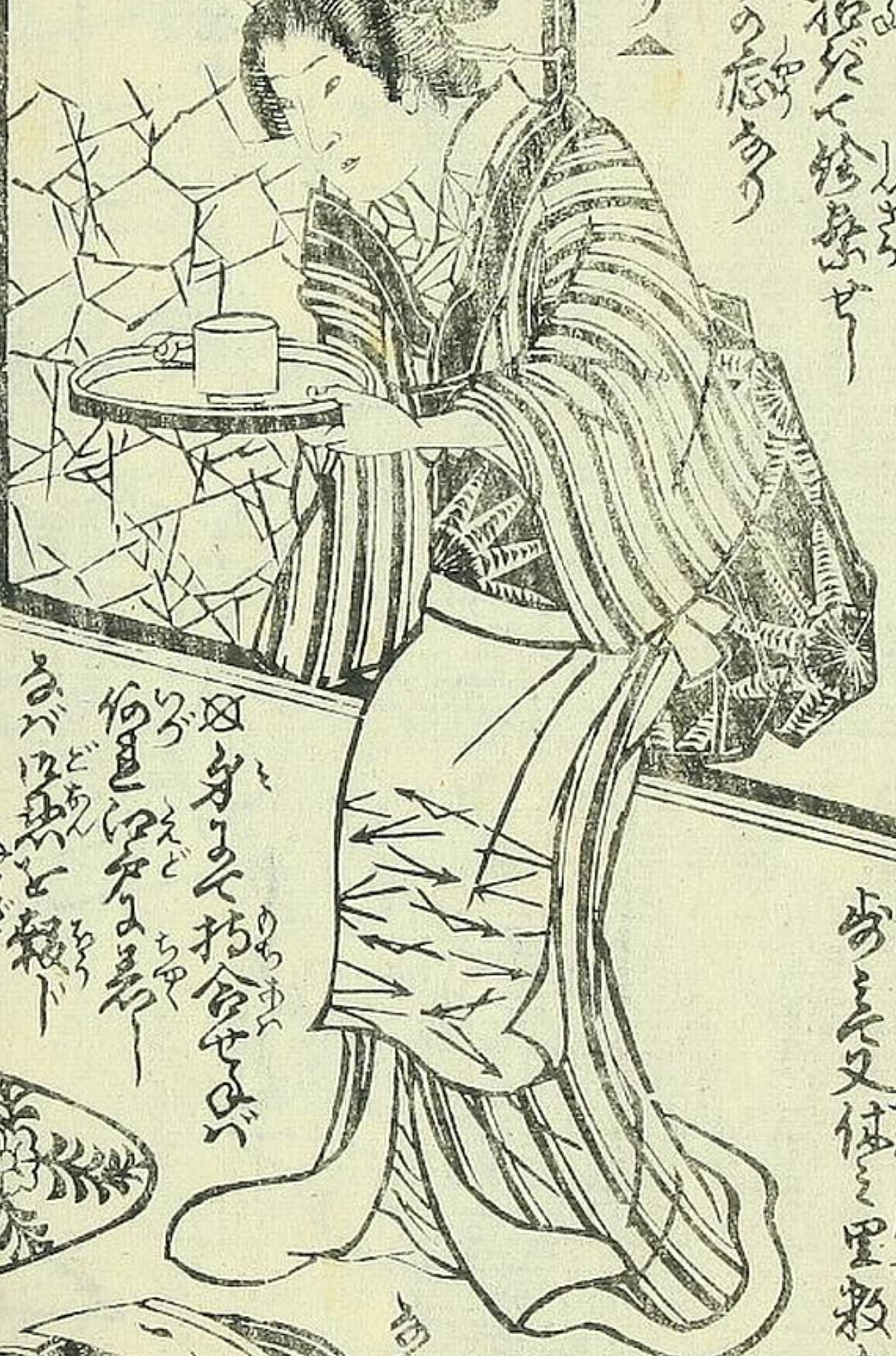
あつち 初年あつち父の机を被んと
ふの 採草のまじりまがりのまじり
あつち 初年あつち父の机を被んと
ふの 採草のまじりまがりのまじり
あつち 初年あつち父の机を被んと
ふの 採草のまじりまがりのまじり



あつち 初年あつち父の机を被んと
ふの 採草のまじりまがりのまじり
あつち 初年あつち父の机を被んと
ふの 採草のまじりまがりのまじり
あつち 初年あつち父の机を被んと
ふの 採草のまじりまがりのまじり

つぎ かわした客の腰に下地の皮とさうらる
 長み境の跡りて客とさうらる大徳者
 ういことと客の案内を頼むるは客の
 客の案内を頼むるは客の案内を頼むる
 客の案内を頼むるは客の案内を頼むる
 客の案内を頼むるは客の案内を頼むる

▲客の案内を頼むるは客の案内を頼むる
 客の案内を頼むるは客の案内を頼むる
 客の案内を頼むるは客の案内を頼むる



客の案内を頼むるは客の案内を頼むる
 客の案内を頼むるは客の案内を頼むる
 客の案内を頼むるは客の案内を頼むる

●客の案内を頼むるは客の案内を頼むる
 客の案内を頼むるは客の案内を頼むる
 客の案内を頼むるは客の案内を頼むる

客の案内を頼むるは客の案内を頼むる
 客の案内を頼むるは客の案内を頼むる
 客の案内を頼むるは客の案内を頼むる

▲客の案内を頼むるは客の案内を頼むる
 客の案内を頼むるは客の案内を頼むる
 客の案内を頼むるは客の案内を頼むる



客の案内を頼むるは客の案内を頼むる
 客の案内を頼むるは客の案内を頼むる
 客の案内を頼むるは客の案内を頼むる



ついでに海へ行く
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ

せんといふ
せんといふ
せんといふ
せんといふ
せんといふ
せんといふ
せんといふ
せんといふ
せんといふ
せんといふ



あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ

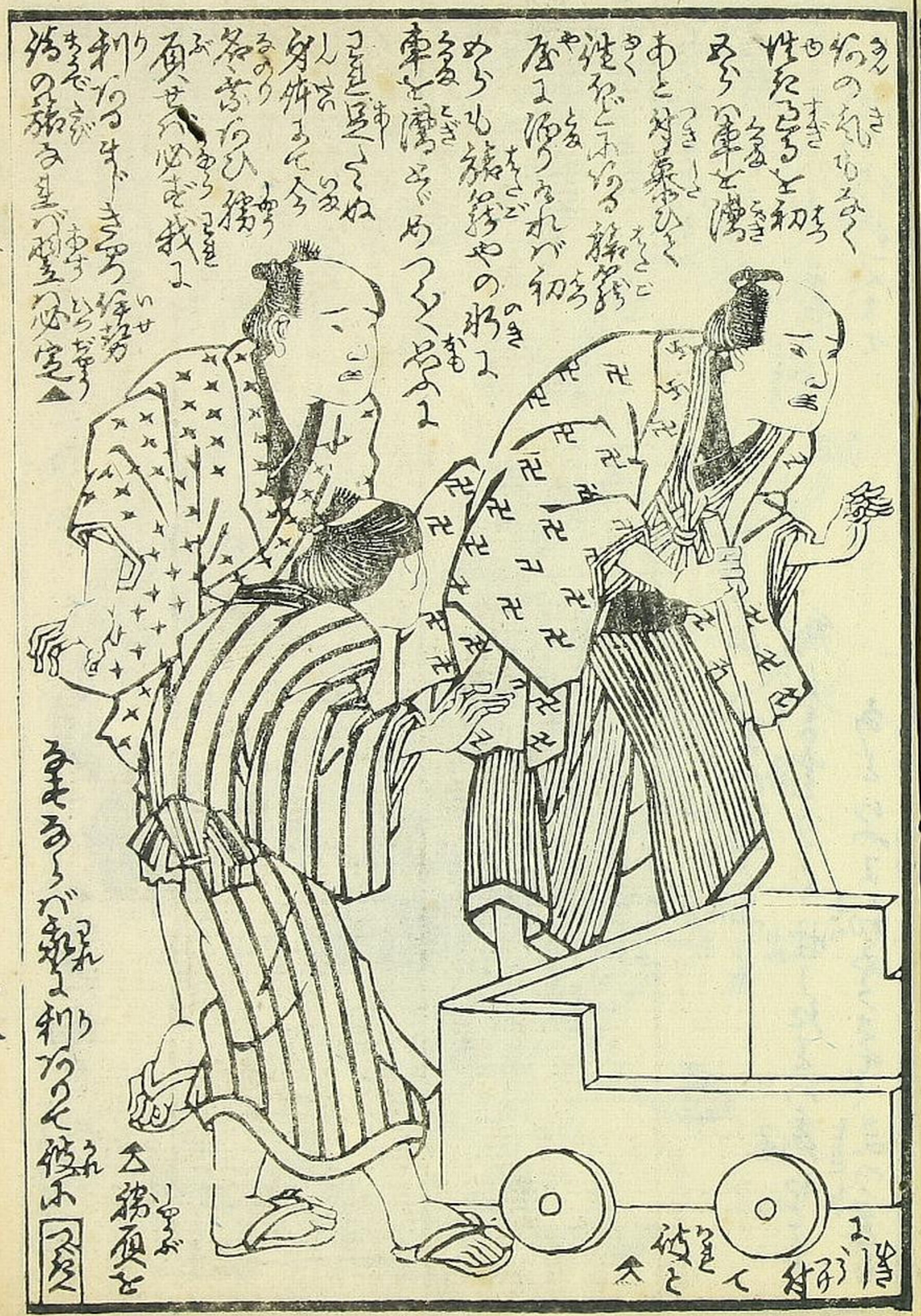
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ
あつせんといふ



つぎ小園の
 縁よそを
 よる初
 もる我情
 心こそ小園
 常はあやせ止め
 屋あ人の相人
 情ののあが心合カと

わさゝか
 りりてい相人
 老るい合カ
 情あや
 あつと面
 ちるとわ

初
 今より
 根ふ
 陰の
 打る
 の仇
 ありと
 要



あつと
 性た
 五
 あと
 性た
 や
 めら
 車と
 こ
 身
 名
 負
 利
 為

ま
 利
 破
 二
 三



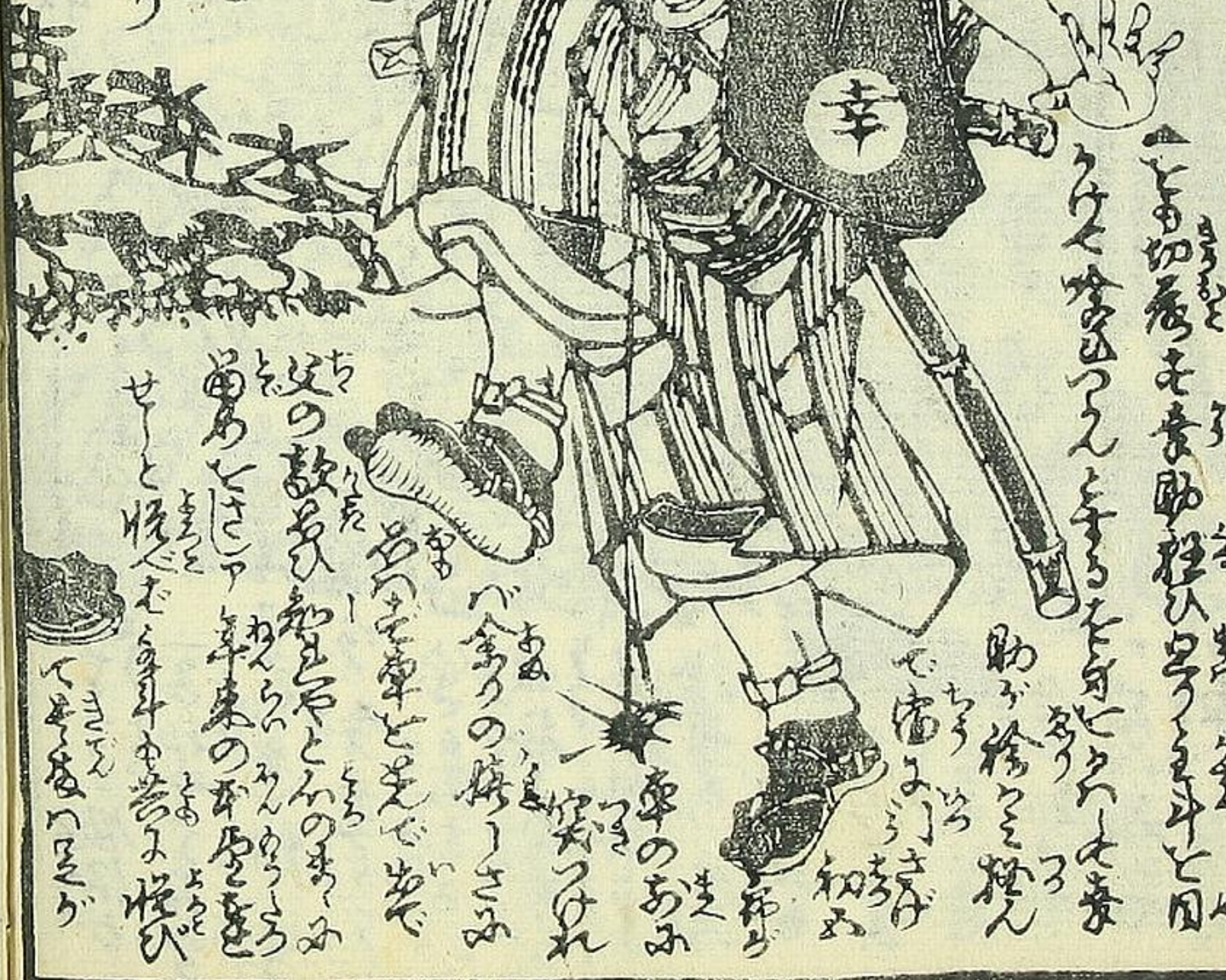
初
 如きまれば...
 春物...
 春物...
 春物...

初
 春物...
 春物...
 春物...

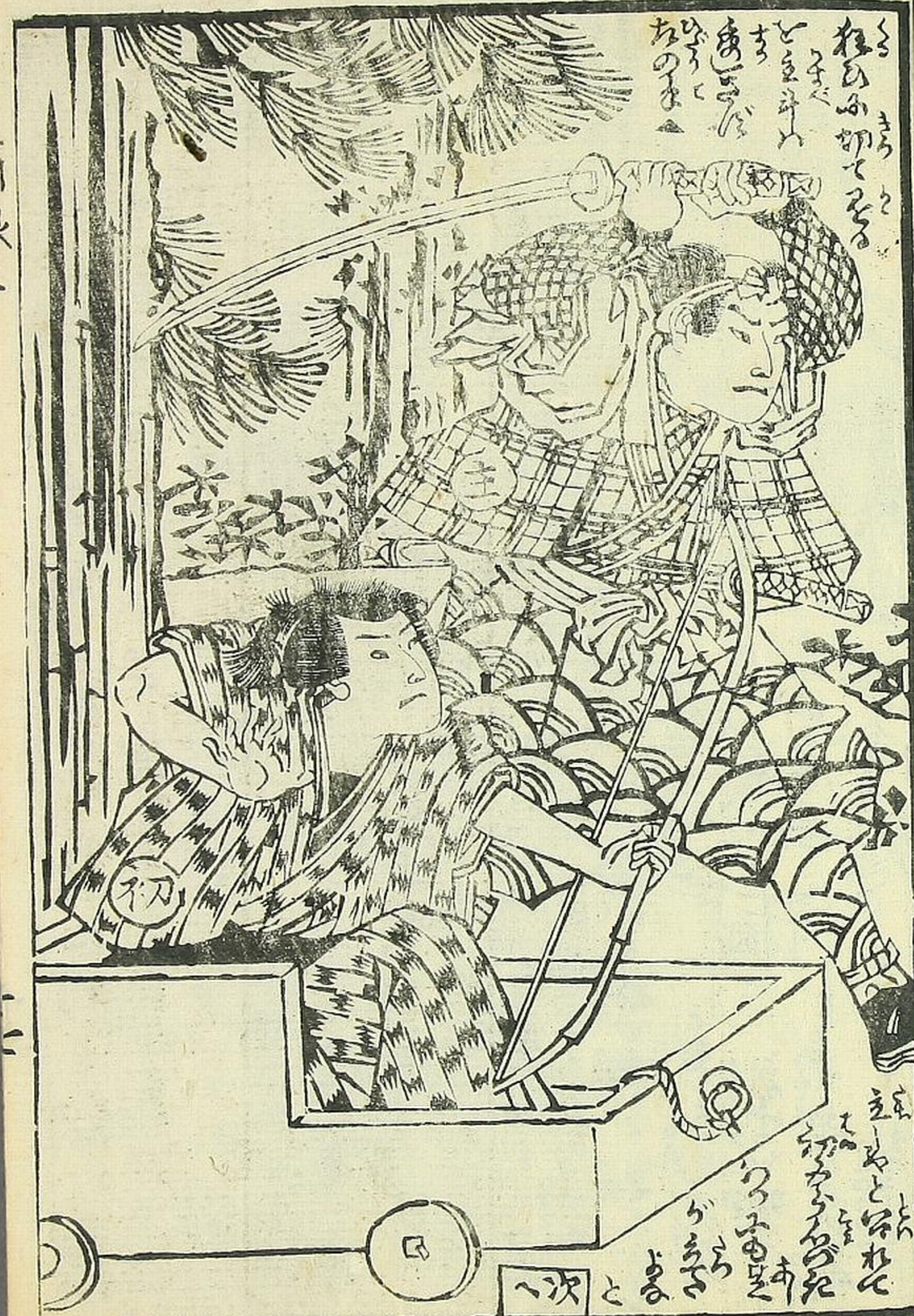


春物...
 春物...
 春物...
 春物...

〆、眞途の嶺の道に、是れと云て、松を
 〆、向ふは、年々、九、二、五、三、と云ふ
 〆、此の道は、松の、木、より、大、き
 〆、折れぬ、さ、よ、く、道、の、ま、た、と
 〆、付んと、七、年、が、た、る
 〆、此、道、を、歩、く、者、は、遠、く
 〆、来、て、今、日、の、道、を、歩、く
 〆、道、の、つ、ら、い、な、ら、う、と、思、ふ
 〆、が、此、道、の、一、歩、を、歩、く、に、一、歩、と、思、ふ
 〆、亦、の、月、を、松、へ、懸、る、竹、の、鳥、の、鳴、き
 〆、矢、ど、つ、く、切、て、も、さ、せ、ぬ、と、思、ふ
 〆、つ、ま、に、此、道、を、歩、く、者、は、松、の、影、を、歩、く
 〆、竹、の、入、り、松、を、見、る、者、も、松、の、影、を、歩、く
 〆、為、る、者、助、け、な、ら、ぬ、と、思、ふ、松、の、影、を、歩、く、者、の、心、の、お、も、い



〆、切、る、者、を、助、け、ぬ、と、思、ふ、と、云、ふ、と、云、ふ
 〆、切、る、者、を、助、け、ぬ、と、思、ふ、と、云、ふ、と、云、ふ
 〆、切、る、者、を、助、け、ぬ、と、思、ふ、と、云、ふ、と、云、ふ



と目良二

一

つき小隠と踏めりるふいせの
健々たる山々も不審に思ふにねと

中世の邸へ入りぬる人もあふ
まじりぬる者もあふ
むらじりぬる者もあふ
とくはびぬるものもあふ



宗賢
病の愈まる

早速百日の世能
と云ふは疾者
病者と云ふは
早速百日の世能

早速百日の世能

お相あるも建てて
の代官を振り出さすの
病者と云へる代官お
よりの後を建てて
お細をあるも建てて
お相あるも建てて
お相あるも建てて

お相あるも建てて
お相あるも建てて
お相あるも建てて
お相あるも建てて
お相あるも建てて

お相あるも建てて
お相あるも建てて
お相あるも建てて
お相あるも建てて
お相あるも建てて

お相あるも建てて

